

# 農産物PRエコバッグ

筑波学院大  
学生が制作

## きょうからタイで販売

筑波学院大学（つくば市吾妻、大島慎子学長）でデザインを学ぶ学生が、本県農産物の海外での販売促進に協力するため、エコバッグを制作した。デザインは「トマト」「イチゴ」「イチゴの断面」の3種類を配し、大きさは大・中・小をそろえた。タイ・バンコク

の直売所で4日から販売開始される。エコバッグは、バンコクの本県農産物直売所「みずほの村市場パシコク店」で販売される。同店を運営するつくば市の「みずほジャパン」（長谷川久夫社長）が、本県農産物の魅力をタイの人々に知ってもらいたいとして、タイの高嶋啓講師に指導を受け、同市の「み

て、学生のデザイン力と豊かな発想力に期待。同社のロゴマークと併せて同大に制作を依頼した。デザインは同大経営情報学科メディアデザインコース3年の河村藍子さんと星華子さんが手掛けた。2人は同



トマトやイチゴをデザインした3種類のエコバッグを披露する学生ら＝つくば市吾妻

ずほの村市場」本店を訪れて、実際にタイで販売するのと同等の野菜を試食して、作品イメージを膨らませているという。

デザインについて河村さんと星さんは「主力商品であるトマトとイチゴを選んだ。試食したときに、特にトマトのおいしさに感動し、思い入れがある」と話し、タイでの販売に期待を込めた。

今回の取り組みは、学生が学外での社会参加活動を通して地域に貢献するプログラムの一環。

（久保浩）